

第55回 澁澤賞受賞

第55回(平成22年度)日本電気協会・澁澤賞授賞式が平成22年11月22日、東京都内にて行われ、賞状ならびに記念品が受賞者に贈呈されました。澁澤賞は、故澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けた栄誉を記念するため、昭和31年に設けられたものです。本賞は、電気保安に傾注された博士の意を体して、電気保安に優れた業績を上げた方々に毎年贈られており、民間で唯一の電気保安関係表彰です。

今年度、当社からは「長年にわたる電気保安への功勞部門」で人財開発センター 配電研修所の松尾 進 副長が、長きに亘る新入社員・在籍社員の教育と、業務改善、技術継承等への積極的な取り組みが評価され受賞しました。

また「発明・工夫、設計・施工部門」では、「経年マンホール保守技術の開発」と「保護制御装置のサージ対策の開発」がそれぞれ受賞しました。

このうち、中電力センター地中線一課 小林 真一 課長、工務技術センター地中線施設課 森本 希 副長、法人営業部 法人営業グループ 酒井 彰人 副長、株式会社シーテック 坂崎 正彦 氏のグループが開発した「経年マンホール保守技術」は、地中送電線の経年マンホール強度

を非破壊にて簡易に判定することができ、さらに、マンホールの強度上の弱点部を簡便に補強することを可能とした技術であり、経年マンホールの診断時間の短縮と、補強コストの大幅な削減を達成しました。

また、電力技術研究所 電力ネットワークグループ 吉田 昌展 主任が開発した「保護制御装置のサージ対策技術」は、約5年間に亘る雷観測と波形解析結果により、送電鉄塔への落雷時に変電所の保護制御装置が故障に至る原因を究明し、対策法を確立したものであり、その成果は当社変電所の低圧制御回路設計に反映されております。

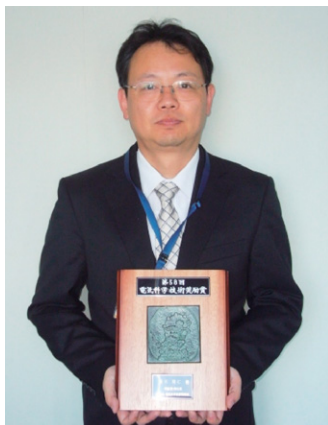


受賞式会場にて(右より、松尾さん、坂崎さん、森本さん、吉田さん、小林さん、酒井さん)

「電気科学技術奨励賞」を受賞

電力技術研究所電力ネットワークグループ送変電チームの清水研究副主査は、「架空地線損傷表示器の開発」により電気科学技術奨励賞を受賞し、平成22年11月24日の授賞式で賞状および記念品を贈呈されました。同賞は科学技術の発展に寄与した電気・情報・通信分野の研究・開発に対して贈られるもので、今回で第58回を数える歴史の深さとその領域の広さが特徴で、権威のある賞として位置付けられています。

今回受賞した「架空地線損傷表示器の開発」は、送電線に設置されている架空地線の落雷による損傷の有無を雷電流の大きさと流れる時間から推定できることを雷観測により明らかにし、損傷発生の可能性が高い送電線区間を表示する装置を開発・実用化したものです。架空地線の雷による損傷箇所を効率的に発見したいというニーズは他の電力会社にも共通しており、新しい技術として注目されています。



受賞された清水研究副主査

日本機械学会動エネ部門「優秀講演賞」を受賞

電力技術研究所エネルギー・環境グループエネルギーチームの大岩主任が(社)日本機械学会動力エネルギーシステム部門より、「2010年度優秀講演賞」を受賞しました。この賞は、前年7月から当該年6月までの部門行事または動力エネルギーシステム技術の研究・技術開発などにおいて顕著な貢献を行った個人、団体に贈られるもので、平成22年11月5日に受賞式が開催されました。

受賞の対象となったのは、平成22年6月に開催された第15回動力・エネルギー技術シンポジウムにおいて、「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア」での実証試験の成果を発表した「バイオマス利用スターリングエンジン発電システムの実証研究」です。今回の受賞は、スターリングエンジンをバイオマス発電に利用するという他に先行した技術開発や、低炭素社会に向けた当社の幅広い取り組みが評価されたものと考えています。



受賞された大岩主任